

【令和元年度 和合こども園 保育教諭 自己評価】

A…十分出来ている B…ほぼ出来ている C…努力が必要

評価項目	自己評価集計 (%)			評価分析
	A	B	C	
教育・保育理念の理解	29.8	53.6	16.6	園の保育理念方針はおおむね理解できているが、その内容をわかりやすく保護者に説明できるかというところに努力が必要と答える保育教諭が見られる。
教育・保育課程・指導計画と記録について	35.7	51.8	12.5	全体的にはほぼ出来ている結果が出ている。保育指針・こども園教育・保育要領へと変わったことで学びなおしをしてきた。保育教諭の負担を減らしていくためにも簡潔な計画、記録にしていきたい。
乳児・未満児の保育の理解	60.7	33.7	5.6	乳児の衛生・安全については、どの職員もよく理解し注意している。0.1.2 歳児については子どもが安定して過ごすこと、保護者との信頼関係が大切であることを十分承知して保育に当たっている。
三歳以上児の教育・保育	36.3	46.2	17.5	こども園に移行して「教育」に注目が集まった。教育・保育要領、教育課程について理解しようとする意識が十分にみられる。自信をもって保育してもらいたい。幼児期の終わりまでに育てほしい 10 の姿を目標に保育することを意識していく。
特別支援教育保育	37.1	40.0	23.6	多様な個性を持つ子が年々増加している。それぞれの個性に寄り添う保育には豊富な知識と高い保育技術が必要である。まだまだ努力が必要だと評価している職員も多い。保育のスキルアップを図っていきたい。
健康 安全	42.9	41.3	15.8	アレルギー、事故、不審者と子どもたちを守る意識を持ち、「起こるはずがない」と過信しないように十分に学校保健安全計画を理解することが大切である。調理職員と保育教諭との連携もアレルギー対策には欠かせない。日々の訓練で不測の事態にも備えたい。
保護者支援 地域の子育て支援	60.3	30.6	9.1	子どもへの保育だけでなく保護者を支えていくこと、園内だけでなく地域の子育て家庭の支援の必要性を十分に理解している。近年では虐待予防、早期発見も重要であるとほとんどの職員が自覚している。
職員の姿勢	47.6	39.3	13.1	保育に求められることが多く多様である。本園の職員は一生懸命学び取り組もうとする姿勢がある。職員間の連携も良く着実にキャリアアップしている。